

5. 新政府の役人

新しい国づくりに参画

明治元年(1868)帰国した栄一は、慶喜の命により駿府(静岡)に移った徳川家の家臣となります。そこで「官民合同の商会」である商法会所を立ち上げ、殖産興業に取り組みました。

翌2年には新政府に召し出され、民部省・大蔵省の役人として度量衡や租税、暦、銀行、金融、郵便など諸制度の導入に携わり、富岡製糸場の設立にも尽力します。

しかし、明治5年国立銀行条例制定の頃から民間人として銀行運営に関わりたいとの気持ちを強め、また大蔵卿・大久保利通と対立を深めたことから、翌6年に官職を辞しました。



「上州富岡製糸場」(NDLデジタルコレクション) 初代工場長には栄一の学問の師・尾高惇忠が就任